

日本NGO連携無償資金協力 平成23年度事業【スウバ村診療所開設事業】報告書

特定非営利活動法人 カラ=西アフリカ農村自立協力会



当事業は2011年10月から2012年4月までの7ヶ月にわたる事業である。

これは、マリ共和国の首都バマコ市からニジェル河北岸を東へ約53km程の距離にあるクリコロコミュンの7カ村(総人口20,306人)を対象として、地域の中心のスウバ村(人口約10,060人)に診療所を建設し、これらの7カ村が合同で運営管理する診療所開設事業であり、地域住民の疾病・感染症を減少し安全な出産を目的としている。

スウバ村は首都バマコ市から遠距離とは言えないが、公的医療サービスが全くない村である。スウバ村及び近郊の村々は、ニジェル川の北岸に位置し、衛生的な飲料水に恵まれておらず河の水も生活用水として使っている。その為風土病のみならず感染症も多く、人々には衛生知識も欠如している。

現在のスウバ村及び近郊の村では次のような事項が認められる。

- ①村の中が非常に不潔で、ゴミが散乱し常に汚水が居住地域に溜まり、ハマダラ蚊の発生によりマラリア罹患率は90%以上。多くの人は慢性化している。
- ②年々増加する出稼者(若者の大部分)が、帰郷時に持ち込むエイズに対する十分な知識や予防教育も無いまま、感染者が増加している。
- ③産院がなく助産師もいないので、国で定めた妊産婦の出産前・後検診も実施されていない。出産時は正しい知識を知らない伝統的産婆の介助のため、異常出血や産後の感染が多く、また出産予後が悪く女性の死亡率も高い。
- ④、③に起因し、乳幼児を含め5歳児未満の死亡率も高い。
- ⑤子供の予防接種の説明が不十分の為、接種率が2割程度でとても低い。
- ⑥その他の感染症(下痢・赤痢・肝炎)、風土病のシストゾンビアース(泌尿器の疾病)、オンコセルコース(リバー・ブラインドネズ)の罹患率が高く、また皮膚病も多い。

この地域の医療サービスは、23km東方の行政機関があるクリコロ町に国立病院とセスコムシステムの診療所が各1カ所である。しかし人々にとっては往復の交通費や診療費が高額な事もあり、容易に診療を受けることが困難である。

このような状況の為に、スウバ村からの要請で当会が種々調査した結果、診療所は生活圏内近くに位置し、地域の人々に依って運営管理されて受診しやすい診療所の開設となった。

ここで働く医療担当者は村で育成する事を条件とし、診療所開設に約2年先んじて村の資金で育成された。当資金では診療所の建設と開設が目的である。

それに関連して当会は、診療所の運営管理の指導、公衆衛生と病気予防知識についての学習会を行なった。この学習会は女性たちに日常生活上の衛生知識の普及と病気予防知識の普及である。

スウバ村診療所建設は2011年10月に始まり、落成式を2012年4月に予定していたが、同年3月11日に発生したクーデターにより、当会本部からのスタッフ派遣も不可能となり、落成式は取り止めた

また、診療所で働く看護師や助産師は村出身者であるが、医師は他所から来るために国情が不安定で予定の医師の勤務が不可能であったりして、順調な診療や管理運営には数年を要した。

このような経過をたどり、診療体制が整い診療が順調になったのは2013年になってからである。

スウバ村診療所は、セスコムという医療体制をとり先に述べたように住民が主体となって運営管理する診療体制で診療に制限がありX線検査や手術はでない。

しかし、この地域には容易に受診できる診療所がこれまでは無かったので地域住民にとっては非常に有効で2016年1月現在運営も順調に進んでいる。

直近の診療所運営状況 :2015年12月までの記録

	一般診療科来院者数 /人	出産児数/人 (女・男)	妊婦検診者数 /人	予防接種者数 /人	収入 (Cfa)	支出 (Cfa)
4月	217	15 (女12・男3)	15	83	1,421,105	713,177
5月	322	20 (女10・男10)	23	63	1,018,540	1,619,540
6月	339	20 (女8・男12)	20	113	1,969,885	1,402,431
7月	292	22 (女10・男12)	23	46	1,286,625	1,356,651
8月	162	17 (女12・男5)	37	?	1,160,980	1,304,002
9月	486	12 (女7・男5)	12	5	1,321,997	1,173,218
10月	530	15 (女10・男5)	20	?	2,262,790	977,790
11月	644	20 (女8・男8)	20	?	2,417,219	1,933,298
12月	477	16 (女10・男6)	15	?	1,752,065	1,067,341

上記表から一般診療者数の増加が理解できる。

経理面での出金には診療所勤務者(医療担当者、薬剤師、助産師、看護師と警備員も含め)の人件費、薬品代金、その他の事務管理費等の全てを含む。公的な資金援助は無い。

現段階では、診療所運営管理について独自で行なっているが、必要に応じて運営面での指導は当会が行ない、医療面ではバマコ市のアサコバファ診療所から医師が出向き指導を行なっている。

今後の問題は、公衆衛生意識の啓発に力を注ぐ必要がある。



講師のカラスタッフのアwakeイタとスウバ村助産師



同カラスタッフ、村上



家族計画を説明するアwakeイタ



研修会光景



研修会へ出席した村の女性グループ代表。  
研修会終了後、グループごとに学んだことを普及する。



スウバ村診療所 正面



診療所北面 (産院入口)



薬局と事務所



トイレ



街道に立てられた診療方向看板



診療所正面壁に取り付けられた看板



事務用品



体重計



開所式で診療所を見学する人たち



医療スタッフ



開所式に集まった人たち



診療所の鍵を渡す



薬局窓口



薬品棚



診察室



処置室



分娩ベット



安静室